

「白岡市文化財保存活用地域計画（案）」に係るパブリックコメントの結果について

生涯学習部学び支援課

番号	意見	意見に対する考え方
1	文化財の多くは、県東部の低湿地という地形由来なのですね。また、ストーリー仕立てになって、より分かりやすくなりました。 目的とは違うのかもしれませんが、時代背景や庶民の生活との接点のようなものを講座で教えていただければ有難いです。勝手な要望ですが、 ①DVDがあれば、市役所のH／P、こもれびの森の常設展示、学校教育、イベント、行政区やスポーツ、文化クラブなどで活用できるのでは。 ②音声ガイドを主要文化財施設に設置すれば、散歩の途中にでも気軽に聞けて身につくのでは。 ③現地研修の場を、観光協会の「白岡めぐり」と連携して、回数も追加し、最寄りの行政区と連携すれば多くの方の参加にもつながるか。 ④「広報しらおか」にも毎月掲載、かつての庚申塔のように。 ⑤文化財PR大使として、市議員や職員の名刺に刷り込む。 ⑥年に1回、「しらおか学」博士検定試験の実施。小学生から一般の部まで幅広く。	①「DVDがあれば、市役所のH／P、こもれびの森の常設展示、学校教育、イベント、行政区やスポーツ、文化クラブなどで活用できるのでは。」につきましては、「文化財の把握・保存・活用に関する方針と取組」の44ホームページの充実事業、45WEBミュージアムの構築事業の中で読み込み、実施する方向で検討いたします。 ②「音声ガイドを主要文化財施設に設置すれば、散歩の途中にでも気軽に聞けて身につくのでは。」につきましては、44、45に加え、47文化財解説板の設置、改修事業、50文化財周遊コースの設定事業、65周遊ルートセルフガイドの発行事業と連動させて検討いたします。 ③「現地研修の場を、観光協会の「白岡めぐり」と連携して、回数も追加し、最寄りの行政区と連携すれば多くの方の参加にもつながるか。」につきましては、前述50、65事業の中で検討してまいります。 ④「「広報しらおか」にも毎月掲載、かつての庚申塔のように。」につきましては、地域計画認定後、広報担当と調整し、情報発信事業として検討いたします。 ⑤「文化財PR大使として、市議員や職員の名刺に刷り込む。」につきましては、シティプロモーションの観点から、担当課と調整いたします。 ⑥「年に1回、「しらおか学」博士検定試験の実施。小学生から一般の部まで幅広く。」につきましては、「文化財の把握・保存・活用に関する方針と取組」41多様なニーズに即した講座の開催事業の中で実施に向けた検討を行います。

2	従来の文化財個々の取り上げから、5つのストーリーとしてまとめると当時の人の動きが想像出来白岡遺産に対する興味が深まります。今まで古文書・金石等見つけても何年頃の物、何を書いてあるかぐらいの思いでしたが、5つのストーリーに対してどんな位置付けになるのか、考えるだけでも楽しいです。 まだまだ眠ってる白岡遺産多くあると思いますので、今回の活動を情報発信して、新たな史実を見つけ、伝えていきたいですね。 5つのストーリーに対しハイキングマップ等作成出来れば、白岡遺産に対する関心も高まると思います。 まだ遺産には入らないかもしれませんが、市役所4階からの景色素晴らしいです。市内の発展の様子、緑多き事、遠くの山もきれいです。（幻の川「日川」も真下かも）。公開日限定で、ハイキングコースに入れて頂ければ、白岡の素晴らしさPR出来ると思います。	「5つのストーリーに対しハイキングマップ等作成出来れば、白岡遺産に対する関心も高まる」と「公開日限定で、ハイキングコースに入れて頂ければ、白岡の素晴らしさPR出来る」につきまして、50文化財周遊コースの設定事業、65周遊ルートのセルフガイドの発行事業と連動させて検討いたします。
3	保存活用地域計画（案）は、よくまとまっていて妥当と思います。 このうち、関連文化財群①鎌倉街道と幻の川「日川」について特に関心があり、今後更にPRを強化していくべきと思う。多くの白岡市民はこの旧鎌倉街道と日川の存在を知っていないと思われる。これは重要な白岡遺産の1つである。その対策として提案する。 ア. 鎌倉街道のルートや街道筋の神社・寺院の由緒等をまとめて小冊子を作成する。これら小冊子を市役所受付やロビー書架棚、又、図書館書架棚に常設設置して掲示しておくのが良い。小・中学校に配布するのも効果があると思う。 イ. 旧鎌倉街道のルートに沿って、市民と一緒に歩くイベントを計画・実施する。毎年気候の良い時期に募集して、説明役の学芸員が同行する。 ウ. このテーマで、ペアーズ・アカデミー等の歴史講座を開催する（毎年1回くらい）。元学芸員の方や外部講師の協力をお願いするのも良いと思われる。 エ. 鎌倉街道沿いの神社・寺院の道路側に、ルートや由緒の説明の掲示板を設置する。	ア. 「鎌倉街道のルートや街道筋の神社・寺院の由緒等をまとめて小冊子を作成する。これら小冊子を市役所受付やロビー書架棚、又、図書館書架棚に常設設置して掲示しておくのが良い。小・中学校に配布するのも効果があると思う。」につきましては、36普及用刊行物の計画的発行事業の中で読み込み、実施する方向で検討いたします。 イ. 「旧鎌倉街道のルートに沿って、市民と一緒に歩くイベントを計画・実施する。毎年気候の良い時期に募集して、説明役の学芸員が同行する。」につきましては、50文化財周遊コースの設定事業、65周遊ルートのセルフガイドの発行事業と連動させて検討いたします ウ. 「このテーマで、ペアーズ・アカデミー等の歴史講座を開催する（毎年1回くらい）。元学芸員の方や外部講師の協力をお願いするのも良いと思われる。」につきましては、41多様なニーズに即した講座の開催事業、42職員出前講座の活用促進事業の中で読み込み、実施する方向で検討いたします。 エ. 「鎌倉街道沿いの神社・寺院の道路側に、ルートや由緒の説明の掲示板を設置する。」につきましては、47文化財解説板の設置、改修事業の中で読み込み、実施する方向で検討します。

4	・ 第3章文化財の特徴④その他の文化財の解説中、橋の名前の記載があるが、大山地区に関するものがないので、大山小前の「陣屋前橋」などを入れてはどうか。 ・ 第5章文化財の保存活用に関する方針と取組の課題の（2）の項目に、文化財の保管・収蔵施設の恒久的確保について記載すべきではないか。 ・ 同項③の体制整備の部分に、客員研究員、市民学芸員の記載がある。大学その他の上級研究機関との連携は、調査研究の広がりを組織的に保障する意味から欠かせない。加えて、市民の興味関心をひくために、地域ごとに市民調査員や調査協力員などを置いてはどうか。 ・ 同章3の基本方針2「文化財を守り伝える」の部分に、文化財所有者に対する教育を盛り込む必要があるのではないか。 ・ 同章3の基本方針3「文化財を知る」の部分に、市民団体や市内の企業等への文化財の貸し出しを伴う普及活動を盛り込むべきではないか。特に、企業へは、資金協力へつなげるためにも、理解を促すべき。 ・ 同章3の基本方針4「文化財をともに支える」の部分に、文化財保護に関する「基金」創設について盛り込めないか。	・ 「「陣屋前橋」などを入れてはどうか。」については、第3章の中に追加します。 ・ 「文化財の保管・収蔵施設の恒久的確保について記載すべきではないか。」につきましては、第5章2の（2）に記載します。 ・ 「地域ごとに市民調査員や調査協力員などを置いてはどうか。」につきましては、文化財保護の体制整備に関する取組の34文化財ボランティアの育成の中で読み込み検討して参ります。 ・ 「文化財所有者に対する教育を盛り込む必要があるのではないか。」につきましては、第5章2の（2）の③文化財保護の体制整備の中に記載いたします。 ・ 「市民団体や市内の企業等への文化財の貸し出しを伴う普及活動を盛り込むべきではないか。」につきましては、37文化財データベースの構築事業、38学校と連携した教材研究の促進事業、39学校化次第パックの作事業成などの事業と連動させて検討します。 ・ 文化財保護に関する「基金」創設についてにつきましては、55白岡遺産への民間資金導入促進事業、56白岡遺産の支援協力体制の整備事業などと併せて検討します。
5	街の中の博物館「QRコードで巡る白岡遺産」を提案する。市内に分散する白岡遺産の掲示板にQRコードを追加掲示し、そのQRコードをスマホでアクセスすることにより、白岡遺産へ興味をもてるようにする。 白岡遺産の掲示板にQRコードを追加する。 多くのひとのもつスマホから手軽に、対象資料にアクセスできるようにする。 QRコードより、その遺産の情報を見ることができるようにする。 例えば、文章情報と写真情報を組み合わせる。 サイトへアクセスしたときに、近くにある飲食店（うまいもの）の情報を得られるようにする。 ひと地点の深い情報から、同時代、または、同地域への導線を加える。初めてアクセスした人は、ひとつの切り口では、「知っていた」で終わる可能性も考えられる。そのため、多様な切り口を与えることにより、これまでと異なる興味をもてるようにする。	QRコードにつきましては、高容量のデータを鮮明に掲示する意図をもって地域計画内でも41・43ページに導入しているところです。

	例えば、白岡にある江戸時代、小久喜の今と昔、神社をめぐる、うまいもの巡り、パワースポットめぐり、春の桜巡りなど。 今まで公開が少なかった博物館資料を積極的に開示することにより有効活用ができるようになる。 博物館というクローズした場所ではなく、市内に広がる白岡遺産という多くのアクセスポイントを設置できる。 スマホとQR コードを積極的に導入することにより、多くの人に学びの機会を用意する。 ある地域内に長く住む住民は、生まれてきてからの環境により、考え方やものの見方が固定される。白岡の住民も同じであると考えられる。ここで、客観的に白岡遺産を学ぶことによりこれまでとは、異なった考え方やモノの見方があることを学び、これからの生活に生かしていく。	市内の周遊につきましては、4 7 文化財解説板の設置、改修事業、5 0 文化財周遊コースの設定事業、5 1 文化財周遊コースセルフガイドの発行事業と連動しており、解説板等へのQRコードの導入につきましても検討してまいります。
--	---	---

※当計画につきましては、今後、文化庁及び関係省庁との協議が控えており、協議の状況によっては、御意見を反映できない場合もございますので御了承くださいますようお願いいたします。